

<第2議案>

2015年度収支決算（案）

6～7ページの2015年度損益計算書（自2015年1月1日 至2015年12月31日）と貸借対照表（2015年12月31日現在）をもって、2015年度収支決算とする。損益計算書は、「一般会計」と「将来計画資金」に区分して示してある。

I 損益計算書

<説明>

2015年度決算のポイントは以下の通りである。

1. 全体として

2015年度は、収支差額0円となる収支均衡予算を組んだが、決算は約66万円の赤字となった。全体としては、ピースデポの財政基盤である会費収入及び書籍販売収入が予算を下回るなか、予算を超える寄付金収入が得られたほか、スタッフ体制の変化によって「管理費」の給料・手当が約95万円予算を下回ったことによる。

「将来計画資金」は、例年充当してきた協力研究員経費39万円に加えて、本年度の特例として、事務所体制の変更などに関連する業務委託費、消耗什器備品費、雑費の一部（計約50万円）の合計約89万円を収益に繰り入れて執行した。

2. 会費収入について

会員・購読者の正味増20名を目標としたが、達成できなかった。またシステム故障等によって会費徴収が不規則となったことも影響し、会費収入は対予算比約157万円の減収であった。

3. 事業収入・支出について

諸般の事情からイアブック2015の発行を見送った結果、見込んでいた書籍販売収入（約265万円）のうち達成できたのは、約25万円に終わった。一方、支出はイアブック2015の発行見送りなどによって、対予算比約86万円の節減となった。

4. 寄付金収入、助成金収入について

一般寄付金を中心に対予算比約76万円が超過達成された。一方、海外派遣、夏季カンパは目標（予算）に達しなかった。システム故障などで適時の協力呼びかけができなかったことが影響している。

5. 管理費支出について

管理費支出全体としては、対予算比で約131万円の節減となった。主たる要因は9月のスタッフ体制の変更（減員）による。一方、スタッフの減員を補うために経理事務を外部委託（業務委託）したこと、スタッフ体制の変動に伴う什器備品の新規購入（消耗什器備品費）や事務所整理の外部委託（雑費）が、一時的費用として発生した。

II 貸借対照表

以上の損益計算書を反映させた結果、2015年12月31日現在の正味財産は、約519万円（当期正味財産約108万円減）となる。